



検査

追加検査

原発性免疫不全症検査

&

脊髄性筋萎縮症検査

検査を希望する赤ちゃんを対象に行われます。

(検査費用については担当医療機関にお尋ねください)

先天性代謝異常等検査

すべての赤ちゃんを対象に公費負担で行われます。(一部保護者負担)

先天性代謝異常等検査と合わせて行うため、新たな採血など

赤ちゃんの体への負担はありません。

検査の流れ

採血

生後4-6日目にかかからる紙に採血します。

検査

採血後、1週間から10日で結果が出ます。

正常な場合

一か月健診の際に出生医療機関を通して結果をお渡しします。

異常が疑われる場合 直ちに連絡します

出生医療機関から電話でお知らせし、診断・治療機関をご紹介します。

精密検査

診断・治療機関で病気がどうかを詳しく調べます。



Q

検査は必ず受けなければいけませんか？

A

検査は強制ではありません。稀な病気ですが、診断や治療が難しい病気のため、**生ワクチン接種前**に、すべての赤ちゃんに受けていただくことをお勧めしています。

Q

検査料金はかかりますか？

A

任意検査のため検査費用がかかります。出産される医療機関にお問い合わせください。

Q

病気の治療費はどうなりますか？

A

「原発性免疫不全症」や「脊髄性筋萎縮症」は、国の特定疾病(難病)や小児慢性特定疾病に指定されており、国や地方自治体の医療費助成制度の対象となります。

万が一病気が発見されても、診断・治療機関、専門医、検査機関が連携し、速やかに適切な治療が受けられるように支援する体制が整っています。また、個人情報は厳重に管理されます。

診断・治療機関 広島大学病院 小児科

検査実施機関 一般社団法人 広島市医師会臨床検査センター

検査をご希望の方は当院まで

新生児

マススクリーニング検査 追加検査のご案内



大切なお子様に今できることを

先天性代謝異常等検査

+

原発性免疫不全症検査

&

脊髄性筋萎縮症検査

原発性免疫不全症 (PID)

どんな病気?

“免疫”に生まれつきの異常があるために、感染症を繰り返したり、重症化したりしてしまう病気です。代表的なものとして、

重症複合免疫不全症とB細胞欠損症が

あります。アメリカや台湾、日本国内でも検査が広がっており、既に多くの赤ちゃんが早期に診断され、元気に育っています。



重症複合免疫不全症

(SCID・スキッド)

適切な治療を受けなければ、亡くなる危険性が高い病気です。感染症にかかる前に診断し、治療を開始することが重要です。

主な症状

- 下痢や咳がつづく
- 体重が増えないまたは減る
- ウイルス感染の重症化
- 口腔カンジダ感染

治療しないまま、ロタウイルスやBCGなどの生ワクチンを接種した場合、危険な状態になる可能性があります。



治療法

造血幹細胞移植によって、免疫機能を回復させれば完治が望めます。骨髄や臍帯血(ヘその緒からの血液)を移植します。

B細胞欠損症

(X連鎖無ガンマグロブリン血症など)

主に男児におこる病気で、母親からの免疫グロブリンが減り始める3~4ヶ月ごろから発症します。早期の診断と治療により、感染症の重症化や再発を防ぐことができます。

主な症状

- 中耳炎、副鼻腔炎を繰り返す
- 肺炎、髄膜炎、敗血症
- 気管支拡張症



治療法

不足している抗体を補い感染症の予防を助けるために、生涯にわたって免疫グロブリン製剤を投与します。

脊髄性筋萎縮症 (SMA)

どんな病気?

“特定の遺伝子”に生まれつきの異常があるために、運動発達がとまるなど乳児期に亡くなることもある病気です。

近年、画期的な治療薬が開発され、早期に発見・治療を開始できれば、障害を残さず成長・発達することが期待できます。



脊髄性筋萎縮症

(SMA)

生後0~6ヶ月で発症し、呼吸困難に陥るなど急激に症状が悪化することもあります。進行性で命の危険もある病気です。

主な症状

- 哺乳不良、誤嚥
- 弱い泣き声、呼吸が浅い
- 筋力低下
(首がすわらない、お座りができない)



治療法

新しく開発された薬により、異常な遺伝子の機能を補います。リハビリテーションで運動発達を促します。



早期に発見して、適切な治療を行うことが何よりも大切です。

このマススクリーニング追加検査や病気について更に詳しく知りたい方は、こちらのホームページをご覧ください。

[PID新生児スクリーニングコンソーシアム]

<https://pidj-nbs.jp>

※本パンフレットは一般財団法人宮城県公衆衛生協会作成のパンフレットを許可を得て転載しております。